

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 自分の患者の資料が最高の教材

演者名 吉永 修

日 付 2017年9月26日

keywords

- 1、 規格化された基礎資料
- 2、 エビデンスに基づいた診断
- 3、 患者との信頼関係

私たちは基礎資料の収集ということの治療の根幹の一つとして考え、日々診療を行っている。しかし、この資料を患者のために本当に有効活用しているのだろうか。私の医院においても、十分納得できるといえる活用は出来ていない。

その反省も踏まえ、1991年初診で吉永歯科を受診し、現在も通院されている患者の症例を提示し、若い先生方とディスカッションしたいと考える。

患者は初診時48歳女性で、現在74歳となられた。この患者と私の付き合いは26年間であり、継続中である。この26年間に患者の喪失歯2歯、失活歯1歯である。一般的には成功症例といえる？と思うが、何度、患者に痛い思いをさせたのか（手術も含む）、いくらお金をかけさせたのか。

患者が私の医療姿勢に、治療に満足していなければ、この関係は続いてはいないだろう。しかし、もっとベストな治療があったのではないかと反省も多々ある。現在、同じ患者が受診した場合、この反省を踏まえた治療を提供できるようになるのが私の成長である。また、これを成すために必要不可欠なのが初診時から経過を追った資料である。

これが添島最高顧問から私が教えられたことの最も重要なことの一つである。若い先生方にも是非、真似をしていただきたい。